

松商学園高等学校 学校評価 報告書

2023年度

評価方法

学校評価アンケート結果（保護者・生徒・教職員）及び授業評価アンケート結果

学校評価の設問

1	教育目標実施	8	進路指導対応	15	担任指導
2	学習習慣指導	9	説明会・懇談	16	コース学年運営
3	授業工夫	10	課外活動	17	教職員の行動・態度
4	授業進み方	11	学校行事	18	保健・安全
5	生活指導	12	家庭連絡	19	入学推奨度
6	問題対応	13	ホームページ		
7	教員相談	14	家庭内会話		

【選択肢】

- ・とても当てはまる
- ・当てはまる
- ・あまり当てはまらない
- ・当てはまらない
- ・わからない

授業評価の設問

生徒自身 についての質問	①【授業マナー】 あなたは、この授業でマナー（私語・いねむりをしない）を守っていますか？ ②【授業参加】 あなたは、自分なりの目標を持って、この授業に積極的に参加していますか？ ③【家庭学習】 あなたは、この授業に必要な家庭学習（予習・復習等）をしていますか？
授業についての質問 （総合評価）	④【話し方】 先生の話し方や説明の仕方はわかりやすいですか？ ⑤【板書等】 先生の黒板・ICTの活用方法（体育・芸術等は実技指導）は良いと思いますか？ ⑥【要点強調】 先生の授業は、重要なところが強調されていますか？ ⑦【授業難度】 授業の学習内容のレベルは、ちょうど良いと思いますか？ ⑧【授業速度】 授業を進めるスピードは、ちょうど良いと思いますか？ ⑨【理解確認】 先生の授業は、生徒の理解を確かめながら進められていますか？ ⑩【質問発言】 先生は、生徒の質問や発言を促し、ていねいに対応していますか？ ⑪【授業展開】 授業の進め方（組み立て）は、興味関心を引き、学習意欲をわかせると思いますか？ ⑫【教員熱意】 先生の授業に熱意を感じますか？ ⑬【公平対応】 私語などに対して適切な対応が取られ、公平で思いやりのある授業ですか？
授業についての 総合的な質問 （満足度）	⑭【満足度】 この授業は、あなたにとって良い授業だと思いますか？
進路についての質問 （進路アンケート）	あなたは、本校の授業で自分の目指す進学・進路を実現できると思いますか？

総合評価

選択肢

【 1 】 …… そう思う

【 2 】 …… どちらかといえばそう思う

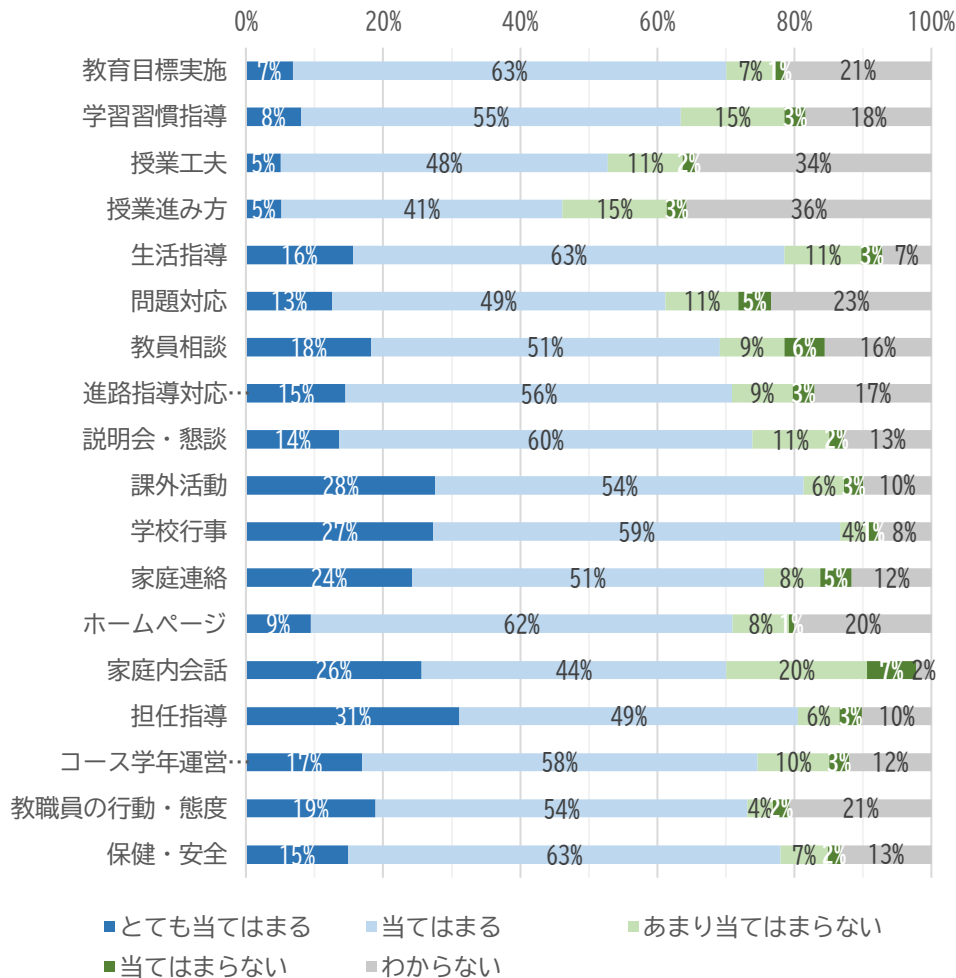
【 3 】 …… どちらかといえばそう思わない

【 4 】 …… そう思わない

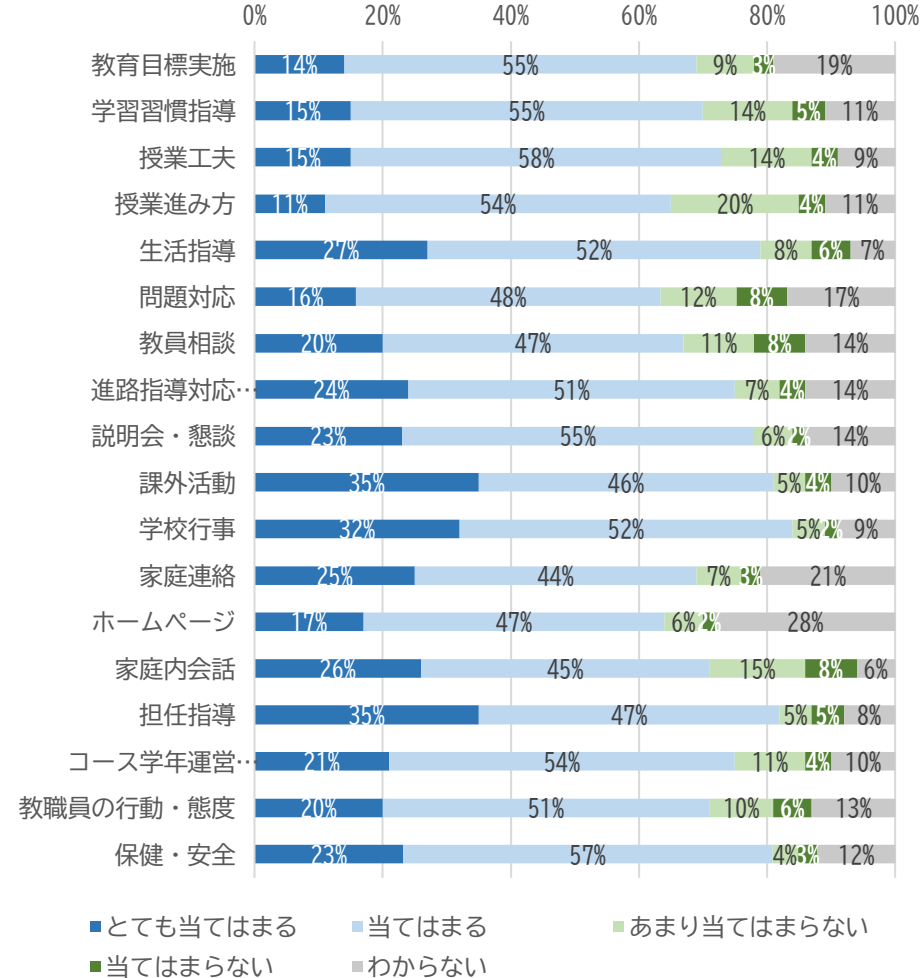
肯定的評価

否定的評価

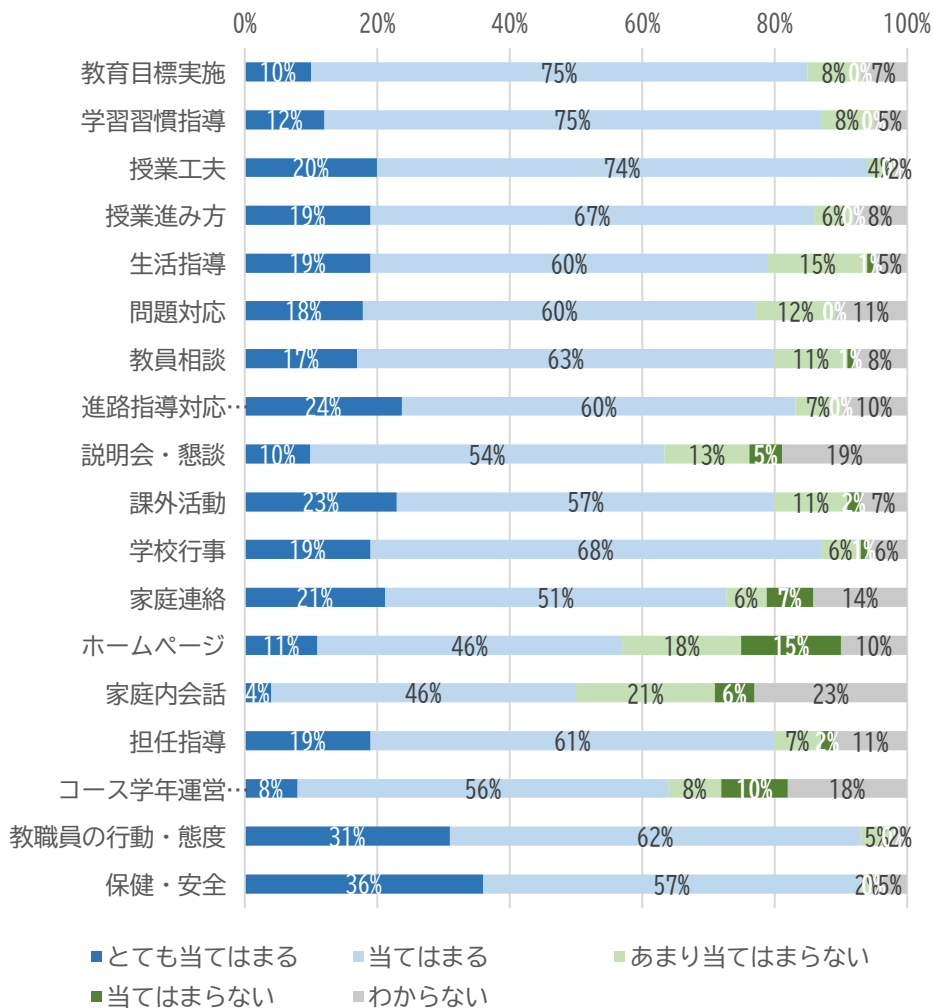
保護者の質問別回答内訳



生徒の質問別回答内訳



教員の質問別回答内訳



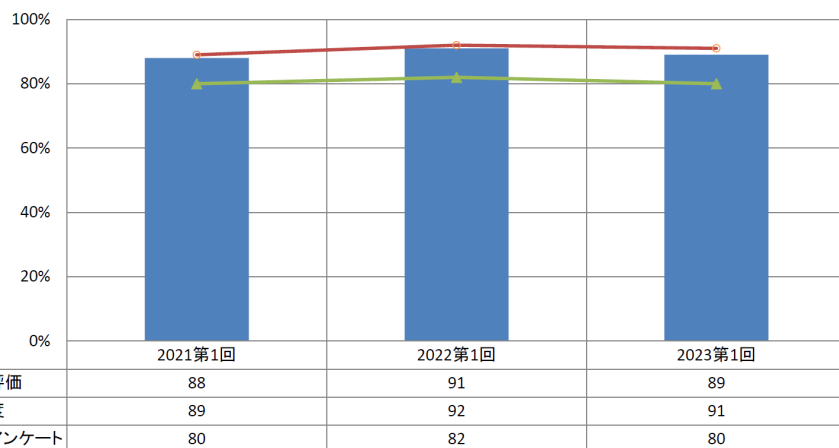
回答を重みづけした3者間の比較

選択肢の回答割合(%)に以下の数値を掛け合わせており、100から-100の範囲で表される。

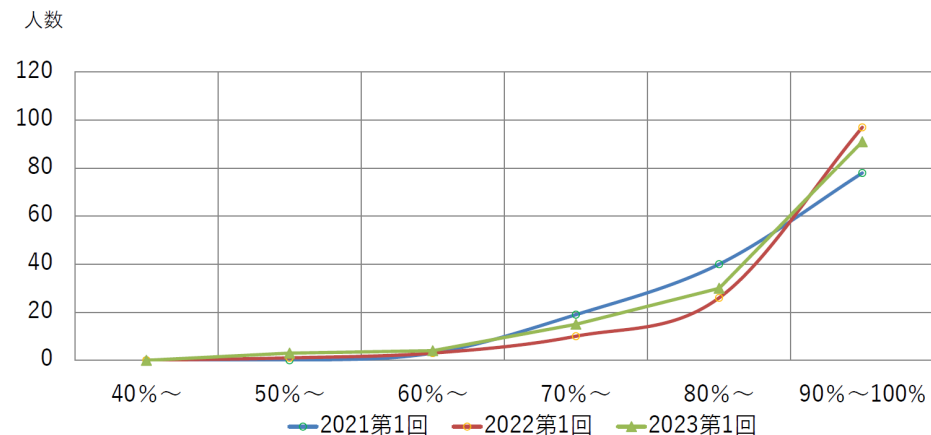
とても当てはまる . . . 1
 当てはまる . . . 0.5
 あまり当てはまらない . . . -0.5
 当てはまらない . . . -1
 わからない . . . 0

	保護者	生徒	教員
教育目標実施	33.5	34.0	43.5
学習習慣指導	25.1	30.5	45.5
授業工夫	21.7	33.0	55.0
授業進み方	15.2	24.0	49.5
生活指導	38.4	43.0	40.5
問題対応	26.8	26.0	42.0
教員相談	33.1	30.0	42.0
進路指導対応	35.2	42.0	50.5
説明会・懇談	35.9	45.5	25.5
課外活動	48.7	51.5	44.0
学校行事	53.6	53.5	49.0
家庭連絡	41.1	40.5	36.5
ホームページ	35.4	35.5	10.0
家庭内会話	30.3	33.0	10.5
担任指導	49.5	51.0	44.0
コース学年運営	37.6	38.5	22.0
教職員の行動・態度	41.7	34.5	59.5
保健・安全	41.1	46.5	63.5

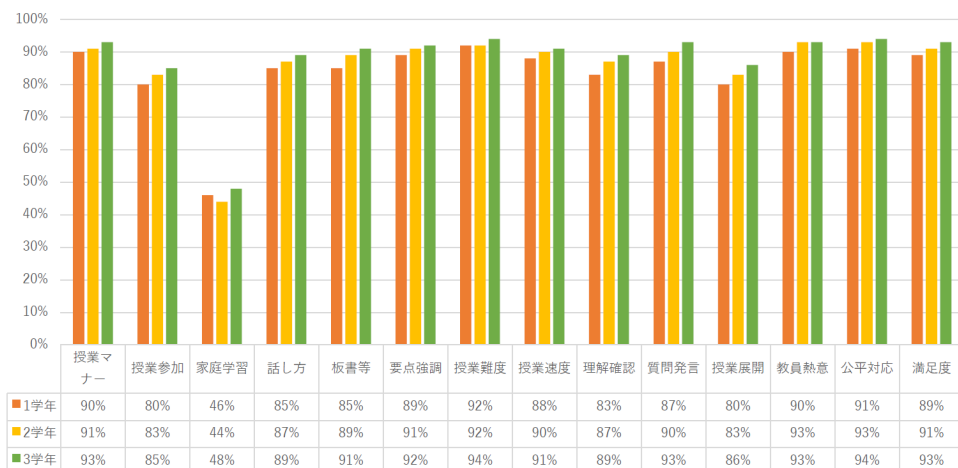
総合評価・満足度・進路アンケートの肯定的回答の割合



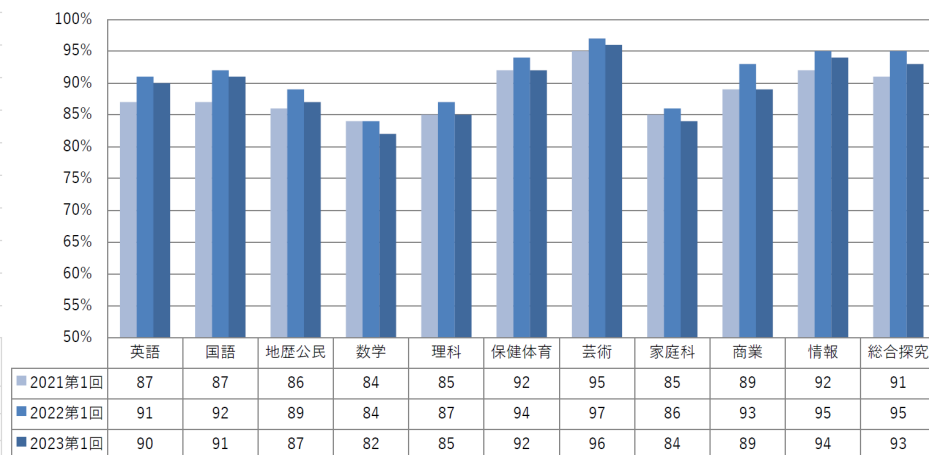
総合評価の肯定的割合（教員分布）



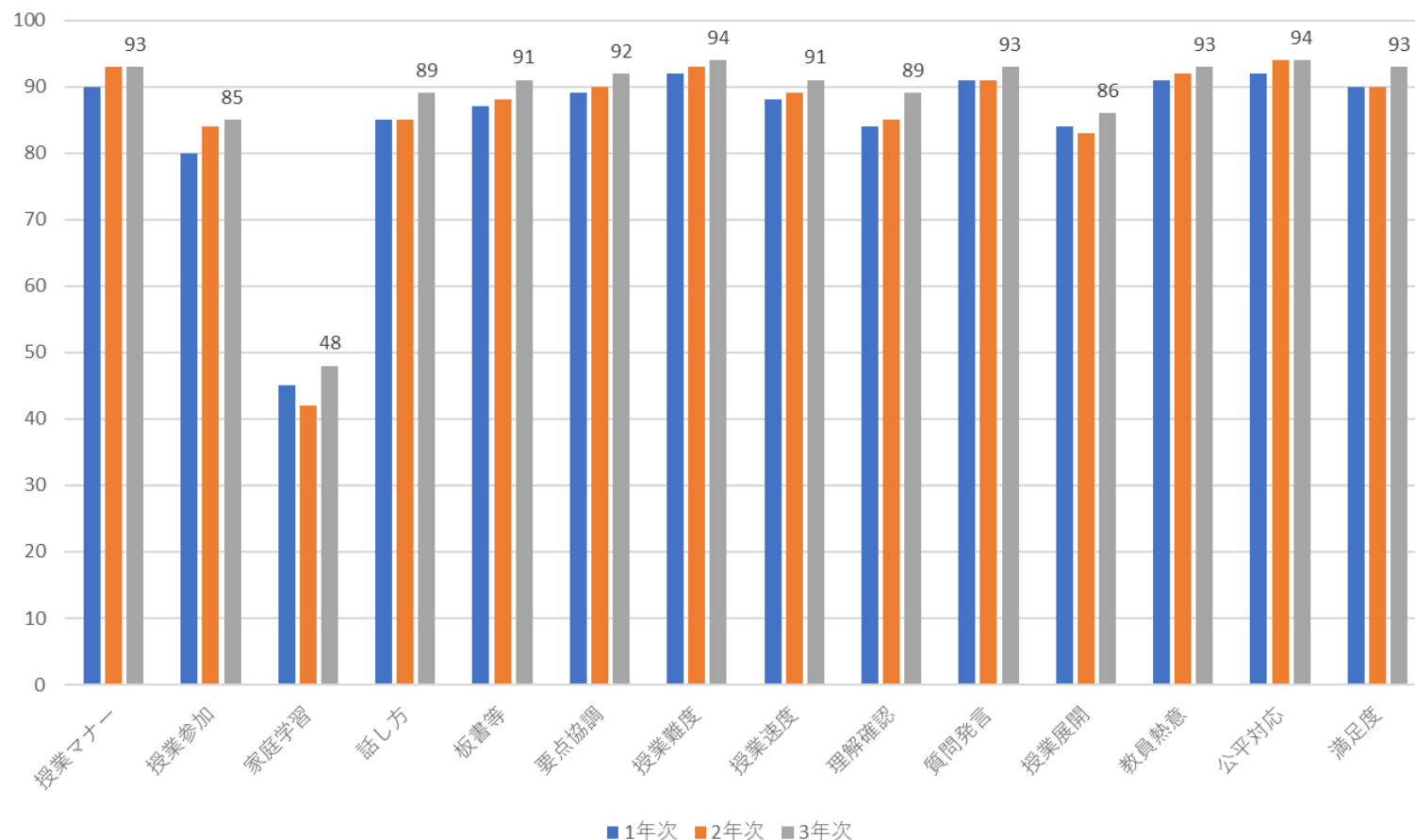
総合評価における質問別肯定的評価の割合



総合評価における教科別肯定的評価の割合



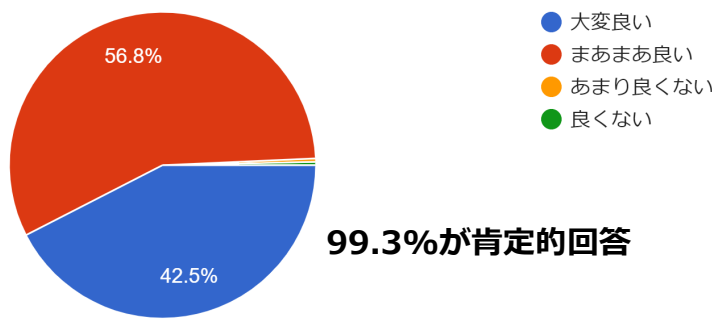
総合評価における質問別肯定的評価の割合（2021年度入学生の3年間の推移）



	授業マナー	授業参加	家庭学習	話し方	板書等	要点協調	授業難度	授業速度	理解確認	質問発言	授業展開	教員熱意	公平対応	満足度
1年次	90	80	45	85	87	89	92	88	84	91	84	91	92	90
2年次	93	84	42	85	88	90	93	89	85	91	83	92	94	90
3年次	93	85	48	89	91	92	94	91	89	93	86	93	94	93

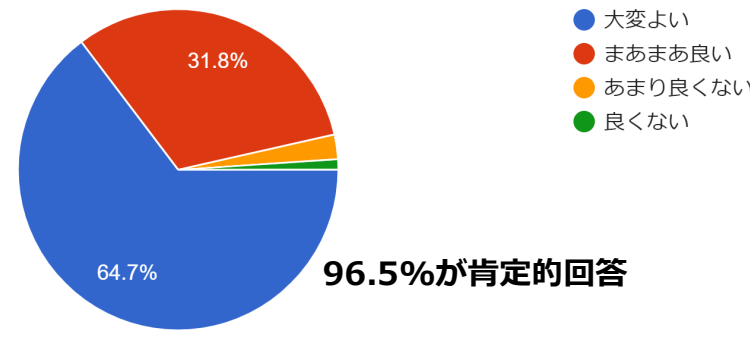
I 自己評価—保護者アンケート結果（1・2年生対象） [2024/2/22～3/15 WEB回答]

今回配布した「高校生活ガイド2024」はいかがですか
285 件の回答



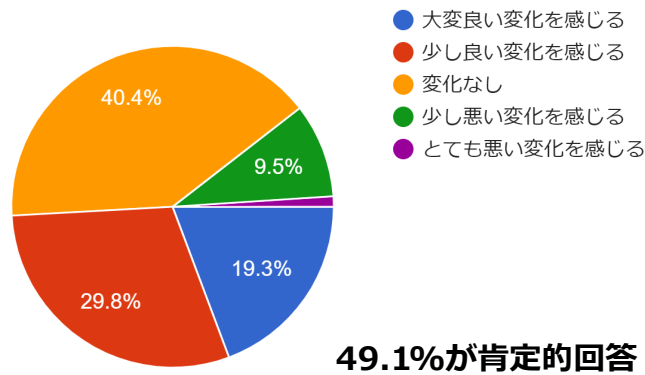
99.3%が肯定的回答

欠席・遅刻等連絡フォームについて
283 件の回答



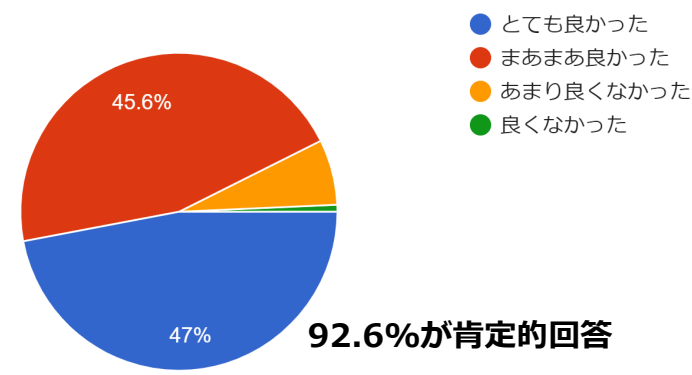
96.5%が肯定的回答

以前と比較した松商学園の印象
285 件の回答



49.1%が肯定的回答
（「変化なし」を除くと82.4%が肯定的回答）

現在の入学した満足度
285 件の回答



92.6%が肯定的回答

生徒の多様性と同様に保護者の働き方、生活様式も多様化しており、伝統ある本校が情報技術の利活用して、次世代のあるべき学校の姿を模索することが重要だと認識している。保護者への情報開示、効率化等の取り組みは満足度向上に寄与していると言える。

学校評価について、保護者からの回答では、「生活指導」、「課外活動」、「学校行事」、「担任指導」において概ね肯定的回答が80%と高い評価を維持・発展できた。一方、「授業工夫」、「授業進み方」など授業に関することでは、「わからない」と回答する割合が多く、「家庭内会話」が否定的な回答が多くみられることから、生徒と保護者が十分な会話ができていないと感じている家庭が一定程度あることを示唆している。「学習習慣指導」の評価に改善の余地があることから、保護者に向けた教育内容の発信や生徒の満足度や学びの様子を伝えていく必要があると考えられる。

生徒からの回答では、全質問における回答割合の平均では、約73%が肯定的な評価となっており、生徒の満足度は一定程度保たれていると言える。また、「生活指導」、「課外活動」、「学校行事」、「担任指導」、「保健・安全」などでは80%以上が肯定的な評価を維持・発展できており、「担任指導」については保護者同様に最も評価が高い結果となった。一方、「授業進み方」、「問題対応」、「ホームページ」、「家庭内会話」などで肯定的な意見がやや低くなっており、個別最適な教育の展開、教育活動の発信を次年度以降も主な改善点として取り組んでいく必要がある。

教員の自己評価回答では、全質問における回答割合の平均では、約79%が肯定的な自己評価となっており、一定程度の高い自己評価が保たれているが、昨年比での変化が大きい質問項目が多い結果となった。「授業工夫」、「教職員の行動・態度」、「保健・安全」などで高い自己評価を維持・発展できており、「授業工夫」については最も自己評価が高い結果となった。

特に「授業工夫」、「進路指導対応」、「コース学年運営」では昨年比で大きく向上している。一方、昨年同様に「ホームページ」、「家庭内会話」では肯定的な意見が低くなっており、校外に対しての発信がまだ十分でないとの認識があるようである。学校全体の情報発信とクラス・コース単位の発信などが部分最適となっている課題があり、学校と家庭・生徒への発信について整理していく必要がある。

これら3者の回答を比較すると、「担任指導」、「課外活動」、「学校行事」では教員自身の認識よりも保護者・生徒が高く評価している結果となった。一方、「授業の進み方」、「問題対応」等では教員の自己評価より保護者・生徒の評価が低い結果となった。更に生徒・保護者からのニーズを適切に把握することが必要だと認識しており、その結果について組織的に教育の質保証を図っていくことを本校のIR活動に位置付けていきたい。

授業評価アンケートからは、全体として、昨年度と比較して肯定的な回答割合がやや低下した項目もあるが、全体年高い評価を維持できている。2024年3月卒業した生徒の3年間の評価を比較しても、毎年評価が高まっていることもわかった。この2年間での取り組みが生徒へも届き始めていると考えることができる。また、課題であった家庭学習についても若干であるが毎年増加傾向になっている。

教科別にみると、理数教科はそれ以外の教科と比べてやや評価が低く、入学当初からの苦手意識が影響している可能性を示唆している。2024年度からはスーパーサイエンスハイスクールに指定され、学校を挙げて理数に興味を持てるマインドセットを授業内外を通じて実施していく。

今後は個別最適な学習を実現するためにも、教員によるフィードバックに重きを置きながら、生徒が満足し、学習成果を最大限発揮できる授業を組織的に構築することを目指したい。

本校では昨年から教育や学校経営に係る各種データの収集・分析を恒常的に行うことにより、エビデンスベースの戦略策定に資する情報を提供することを目的としてIR（Institutional Research）室を設けている。今後は更に授業改善やカリキュラムマネジメントにも積極的に活用し、持続可能な学校改革を実現していかなければならない。

【学校関係者及び外部の評価委員からの意見抜粋】

- ・進学実績が着実に向上しており、高く評価できる。
- ・学校評価アンケート結果について高い評価を維持できており、概ね評価できる。
- ・学校評価や授業評価に加えて、独自のアンケートなどを活用し、他校よりも詳細な分析がなされている。
- ・今回の結果から課題と思われる点については引き続き教育改善を行っていくことに期待したい。
- ・スーパーサイエンスハイスクールへの挑戦は大いに評価できる。学校の方向性や視点も素晴らしい、理科系を楽しく学べる授業を通じて、理系人材を育成してほしい。
- ・英語教育について高大連携などはあるか。グローバル教育が広く認知されているため連携を進めてほしい。
- ・教職員の働き方改革を十分に進めてほしい。特にメンタルヘルス面での配慮は欠かせない。
- ・指導案件は表になっていないものも多数あると思われる。そして指導の在り方も問われている。次に生きる指導をお願いしたい。指導件数を減らす、押さえつける教育ではなく、家庭も含めて未来志向な指導をお願いしたい。
- ・ヘルメット着用への意識が高いと感じる。引き続き自転車ヘルメットの着用が進むよう取組をお願いしたい。
- ・保護者の視点からも、進路実績の向上は入学者増につながる。近隣のIBも人気であり、今回のSSH採択には大いに期待している。卒業式のホームルームの様子をみて、担任指導の手厚さ、教員が生徒に慕われていることを実感した。
- ・学校としての災害対策はどうか。これまでの被災地から実際に必要となったものを具体的に検討し、役に立つ備蓄を検討してほしい。更に今後指定避難所となった場合には、避難する世代も幅広くなるため、必要なものが異なってくる。
- ・校内の危険箇所を日頃からリスト化し定期点検すること。また建物の耐震だけでなく、建物内の備品の転倒防止対策も必要である。



発行者：学校法人松商学園 松商学園高等学校 IR室
発行日：2024年3月28日